

緑あふれる  
豊かで便利な  
「とかいなか」

 広報

# ちくぜん

2026 臨時号



# 令和8年度 施政方針

POLICY STATEMENT



筑前町長 田頭 喜久己

令和8年は、世界各地で紛争や対立が続き、国際情勢が不安定さを増す中での幕開けとなりました。長期化する戦禍や地域紛争を発端とした緊張の高まりは、世界経済やエネルギー・食料情勢を通じて、私たちの日々の暮らしにも影響を及ぼしています。

国内においても、昨年夏の記録的な猛暑や渇水などの気候変動、物価高騰や米を巡る不安など、生活環境は大きく変動しています。加えて、急な解散総選挙が行われるなど政治情勢も大きな転換点を迎えました。

このような激動の時代にあっても、本町の未来を確かなものとしていくことこそが、私たちに課せられた使命であります。「グローバルに考え、ローカルに行動する」という姿勢を貫き、時代を的確に捉えながらも、足元の町づくりを着実に進めてまいります。

その中で、改めて実感するのは、本町が平穏であることの尊さであります。そして、本町が掲げてきた「食と平和」を基幹とする町づくりの意義を、より一層深く認識する一年になるものと考えております。

また、いわゆる「静かなる有事」とも言われる人口減少問題は、地域社会の持続可能性を左右する構造的課題として、全国的に深刻さを増しています。

全国の約9割の自治体が人口減少局面にある中、交通機関や商業施設、ガソリンスタンドなど民間サービスの縮小が懸念されております。しかしながら、本町の人口は近年、微増傾向を維持しております。

福岡都市圏の発展による波及効果、本町独自の上下水道整備、子育て支援の充実などの施策効果もありますが、その根幹にあるのは、住民と職員が共有するふるさとへの誇りであります。町に誇りを持ち、暮らしを楽しむ姿勢が周囲へと広がる、いわゆるシビックプライドの醸成こそが、本町の真の強みであります。

人口の維持・増加は、消費経済の拡大と民間活力の向上を促し、地方税収や地方交付税の安定にもつながります。上下水道事業の収支改善にも好影響をもたらします。将来の人口減少を見据えながらも、当面は人口微増を確かなものとする戦略を講じ、国の人口減少ビジョンと町独自の施策を融合させてまいります。

# 令和7年度 町の取り組み、この1年

LOOKING BACK ON FY2025

## お米全世帯配布 受取率 98%

本事業は、地産地消の推進に加え物価高騰や災害対応訓練という目的も含めて実施しました。町で生産されるお米は約10万人が1年間に消費する量で、自給率では約300%となります。この豊かな食の基盤こそが町の揺るぎない強みです。また、お米の受取が困難な世帯はご近所で助け合うなど、「共助」の地域の絆を再確認する機会にもなり、地域の一体感の醸成にも寄与したと認識しています。皆さんからの感謝の声をいただき、町の思いが届いていると実感しました。

## 使用済み紙おむつリサイクルが本格始動

一般ごみに比べて焼却に多くの燃料が必要となる使用済み紙おむつのリサイクルにより、限りある資源の有効活用、環境の保全と持続可能な地域社会の実現を目指して本格始動した令和7年度は、回収量150tであり、約75tのCO<sub>2</sub>排出量の削減を達成しました。

福祉施設などの事業所から出る使用済み紙おむつのリサイクルも実施する取組は県内初です。

## アフタースクール「英会話コース」の新設

令和7年度から「英会話コース」を新設し、さらなる教育環境の充実を図りました。「英会話コース」の受講者は22人、「数・英コース」との合計は203人となり、町内中学校全生徒の約23%がアフタースクール（公営塾）を受講しています。成績向上や学習意欲向上につながったとの声が多く、一定の効果を得ています。

## 小中学校の給食費を補助

「食」を通じた子どもたちの健やかな成長の支援および保護者の経済的支援として町内小中学校の給食費の半額を補助しました。令和8年度からは小学校の給食が無償化され中学校は引き続き半額を補助します。

## 本町活性化の2つの象徴

平和への情報発信基地である**大刀洗平和記念館（年間来館者数約10万人）**および食の拠点である**ファーマーズマーケットみなみの里（年間来場者数約100万人）**は町のシンボリックな施設として、年間延べ約110万人の交流人口を生み出し、本町活性化の象徴的存在として着実に成長しています。

## スマート農業による「とかいなか」の創造

国や県の補助事業を活用し、生産技術の高度化や作業の省力化を図る農業用機械・機具約130台の導入補助を行いました。これらの中には、役場屋上に設置したRTK基準局と連携し、自動操舵が可能なトラクタ、田植え機、ドローンなどがあり、スマート農業の推進を図りました。また、危険を伴う河川やため池堤防の草刈りに活用できるラジコン草刈機の貸出しも実施しました。

※ RTK（リアルタイムキネマティック）とは…衛星を使いGPSより精度が高い位置情報を取得する技術

## 防災備蓄品の充実

災害発生後、避難生活を余儀なくされた際の備えとして、防災備蓄品（災害用パーティション940張・簡易ベッド2,073台・組立トイレ43台・発電機51基）を購入しました。これは、自助・公助・共助のうち「公助」の充実です。また、「自助」を考えるきっかけとして防災リュックをお米と一緒に配布しました。

## 中牟田小第二学童保育所の新設

児童数が増加している中牟田小学校の第2学童保育所を新設し、受入れ人数が増加しました。これにより、子どもたちの放課後の安全・安心な居場所が確保され、健やかな成長につながることが期待されます。

しせいほうしん

### 「臨時号」をなぜ出すの？「施政方針」ってどんなもの？

「広報ちくぜん臨時号」は、人口3万人を維持して、町のさらなる発展に向けて実施する様々な事業を町民の皆さんにも知っていただき、一緒にまちづくりを進めていきたいという思いから発行しています。

「施政方針」とは、ひと言でいえば「町長から皆さんへの約束と決意表明」です。議会の始まりに町長が発表するもので、「町をこれからこんなふうにしていきたい」という思いや、「この課題に力を入れて取り組みます」という計画をまとめたものです。内容は、子育て・教育、高齢者福祉、道路や公共施設の整備、地域の産業振興など、私たちの暮らしに直結するテーマが並んでいます。「施政方針」という言葉は堅く聞こえるかもしれませんが、「町がこれから何をしてくれるのか」を知ることができる大切なお知らせです。皆さんの町の「これから」が、詰まっています。施政方針をもとに予算や具体的な事業が組み立てられ、私たちの暮らしに関わるさまざまな取組が進んでいきます。

# 令和7年 国勢調査において 人口3万人突破!!

# 令和8年度 町の予算

TOWN BUDGET

令和8年度一般会計当初予算は、前年度比16億2,312万円増の169億3,811万円となりました。

本町の目指す将来像「緑あふれる 豊かで便利な とかいなか」実現に向け、次のページよりご紹介する主要事業を着実に推進するための予算編成となっています。

※表示単位未満を四捨五入しており、端数の関係で数値が一致しない場合があります。

# 令和8年度 重点施策

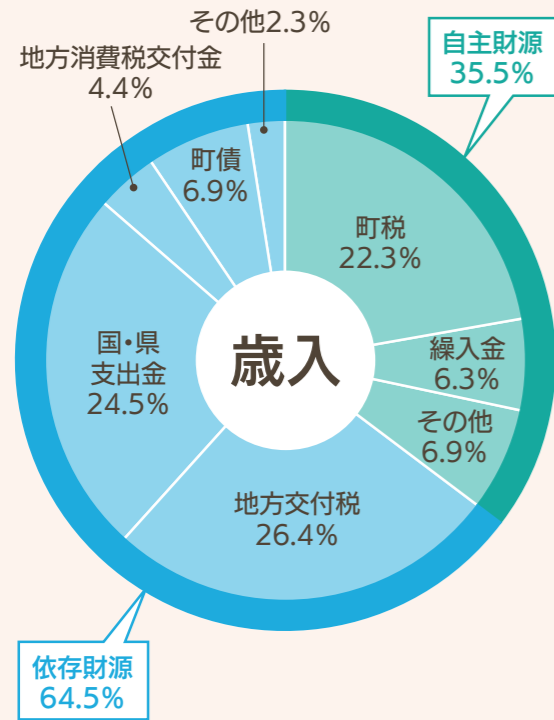
PRIORITY MEASURES

施政方針に基づく重点施策とともに、民間と協働した地域活性化にも積極的に取り組みます。

町民の皆さんのより豊かな暮らしの実現に向けて、全力で取り組みます。

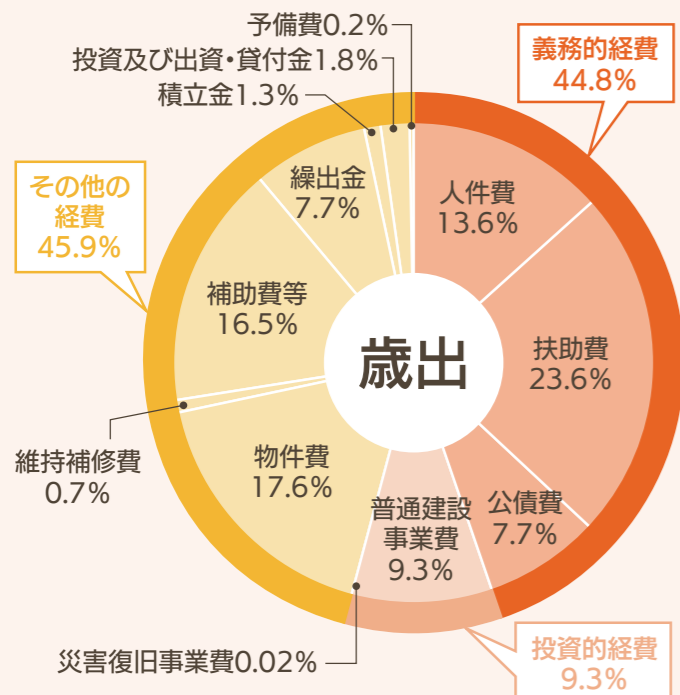
## 令和8年度 一般会計当初予算

# 169億3,811万円



予算区分	予算額	前年度比
<b>自主財源</b>	<b>60億 1,610万円</b>	<b>1億 3,115万円</b>
町税	37億 7,213万円	2億 1,958万円
使用料・手数料	2億 4,080万円	518万円
分担金・負担金	1億 9,931万円	32万円
財産収入	1,886万円	121万円
寄附金	3億 3,048万円	9,996万円
繰入金	10億 7,229万円	▲1億 671万円
繰越金	2億円	0円
諸収入	1億 8,223万円	▲8,840万円
<b>依存財源</b>	<b>109億 2,201万円</b>	<b>14億 9,198万円</b>
地方譲与税	1億 5,222万円	173万円
地方消費税交付金	7億 5,000万円	1億円
各種交付金(※)	1億 4,554万円	▲32万円
地方特例交付金	8,660万円	4,160万円
地方交付税	44億 7,269万円	2億 3,464万円
国庫支出金	24億 9,733万円	7,378万円
県支出金	16億 5,324万円	1億 9,025万円
町債	11億 6,440万円	8億 5,030万円
<b>合計</b>	<b>169億 3,811万円</b>	<b>16億 2,312万円</b>

(※) 利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、法人事業税交付金、ゴルフ場利用税交付金、国有提供施設等所在市町村助成交付金、交通安全対策特別交付金で構成されています。



予算区分	予算額	前年度比
<b>義務的経費</b>	<b>75億 8,823万円</b>	<b>4億 9,394万円</b>
人件費	22億 9,734万円	7,653万円
扶助費	39億 9,493万円	4億 4,770万円
公債費	12億 9,596万円	▲3,028万円
<b>投資的経費</b>	<b>15億 8,151万円</b>	<b>7億 5,927万円</b>
普通建設事業費	15億 7,751万円	7億 5,847万円
災害復旧事業費	400万円	80万円
<b>その他の経費</b>	<b>77億 6,837万円</b>	<b>3億 6,992万円</b>
物件費	29億 8,148万円	4億 4,861万円
維持補修費	1億 2,160万円	▲99万円
補助費等	27億 8,817万円	▲1億 88万円
繰入金	13億 1,152万円	▲5,155万円
積立金	2億 2,520万円	5,702万円
投資及び出資・貸付金	3億 1,040万円	1,770万円
予備費	3,000万円	0円
<b>合計</b>	<b>169億 3,811万円</b>	<b>16億 2,312万円</b>

### ① DXの推進

従来の推進室を昇格させDX推進課として事業促進を図ります。住民ファーストを原点とし、AIを含めたデジタル技術の活用などにより行政サービスの高度化と効率化を図り、利便性向上を実現します。

### ③ 教育環境の充実

三輪小学校、三並小学校、夜須中学校の体育館空調整備を進めるとともに、各小中学校のトイレ洋式化を推進し、安全で快適な学習環境を整備します。

### ⑤ 企業誘致の促進

令和7年度に完工した四三嶋工業団地への民間企業の誘致を促進し雇用拡大と税収増を図ります。

### ② 篠隈新道交差点および歩道整備事業

10年来の取組である一期工事が完工しました。県当局、地権者、地元期成会の方々と役場との協働によって10年がかりで実現したもので、さらなる町の要衝の交通安全と生活利便性の向上を図ります。

### ④ 防災・減災対策

平成30年の豪雨で決壊した中島ため池の教訓を忘れず、ため池の持つ防災機能を再確認し、ため池改修事業に着手し、地域の防災力向上を図ります。

## 民間との協働による 特色ある取組

健全財政の維持と持続可能な地域活性化を実現するため、民間活力との協働を一層深化させます。

### ① 企業立地

主要地方道久留米筑紫野線4車線化に併せ、数年先を見据え、食肉センター建設を推進します。また、今秋に稼働する櫛木地区の養豚施設と連携し、食産業の振興を図るとともに、堆肥を活用した有機農業への展開を研究していきます。

### ③ 山林整備の促進と活用

町の面積の3分の1を占める山林について、山間地の事業所、地域住民、行政が協働し、整備と活用を進めます。

### ⑤ ふるさと納税の拡充

町資源の再発掘を目的として、企画課内に民間専門員を配置し、寄附金額の増加を図ります。

### ② アフタースクールの拡充

数・英コースに加え、英会話コースも基礎・活用クラスに分けることで、より自分に合った学習ができるようにしています。専門的指導力の高い講師によるアフタースクールの長期的な運営に向けて、高等学校等で指導経験がある講師の確保を図り、生徒たちの学びの選択肢を広げます。

### ④ RTK(リアルタイム・キネマティック)技術の活用

本庁舎に設置しているRTK基準局を活用したスマート農業を推進し、生産性向上と担い手支援を図ります。

### ⑥ 使用済紙おむつリサイクル事業の推進

民間事業者との連携により、循環型社会の実現を目指します。

**農林業** **ため池の改修**

農林商工課 4億886万円

農業用水を確保するため、ため池の劣化評価、改修に向けた測量設計、改修工事に係る費用です。これらは、災害対策としても重要な事業の一つです。



**教育** **教育現場のデジタル活用推進**

教育課 2億9,440万円

GIGAスクール用タブレットの更新や関連する環境整備に係る費用です。デジタルを活用した学習環境を改善します。



**教育** **小・中学校の給食費を支援**

教育課 1億4,174万円

令和8年度からの小学校給食費無償化に伴い、昨年度実施した半額補助から全額補助とします。また緊急経済対策として中学校の給食費を昨年度同様半額補助します。



**安心安全** **消防団第1分団ポンプ車の更新**

環境防災課 3,168万円

消防団ポンプ車（第1分団）の更新費です。地域の防災体制を維持・強化し、万一の火災時にも迅速に対応できるよう、消防施設の機能向上を図ります。



**安心安全** **防災行政無線の更新・維持管理**

環境防災課 7,176万円

防災行政無線で放送するための本機及びJアラート用機種の更新に係る費用です。町民の安心安全を守る大切な機器のメンテナンスを行います。



**農林業** **農業機械・施設の導入支援**

農林商工課 1億4,894万円

農業生産に欠かせない農業用機械や施設の導入への支援を行います。令和6年度に設置したRTK基準局を活用する機械も対象とし、スマート農業の推進を図ります。



**子ども** **保育所等への給付**

子ども課 15億5,121万円

町内外の特定教育・保育施設等の適正な運営のため運営委託料を給付します。令和8年度から夜須幼稚園とアイグラン保育園下高場が新たに対象施設となっています。



**子ども** **子ども誰でも通園制度の実施**

子ども課 1,321万円

子ども誰でも通園制度を実施するための委託料です。全てのこどもの育ちを応援し、多様な子育て家庭への支援を強化します。

**子ども誰でも通園制度**

**安心安全** **防犯カメラ設置を補助**

環境防災課 25万円

犯罪を抑止し、安全で住みよいまちづくりの推進のため、行政区が設置する防犯カメラの一部費用を補助します。



※写真はすべてイメージです。

令和8年度 **主要事業**  
MAJOR PROJECTS

施政方針に掲げた方向性をもとに重点施策を定め、今年度の予算と具体的な主要事業が決まりました。

町民の皆さんの暮らしをより豊かにするための主な取組をご紹介します。

※表示単位未満は切り捨てています。

※特別会計予算を含む事業もあります。

**New!**

教育

**小中学校体育館の空調設置  
および校舎トイレ洋式化**

教育課

7億6,389万円

三輪小学校、三並小学校と夜須中学校体育館に空調を設置するほか、東小田小学校、中牟田小学校、三並小学校のトイレの洋式化を行います。児童・生徒にとって快適で充実した学習環境・安心できる生活環境を整備して健やかな成長を後押しします。



**New!**

農林業

**農林業の学びの場を開設**

農林商工課

413万円

農林業の知識や技術を学ぶため「町立夜須高原森と暮らしの大学校」を開設します。日常では体験することが難しい山の暮らしを実際の現場等を通して学びます。



**New!**

文化

**電子図書館導入**

生涯学習課

596万円

パソコンやスマートフォン、タブレットなどで電子書籍を利用できるシステムを整備することで、時間や場所にとらわれずに本にアクセスできる環境を構築します。



観光  
商工業

**企業誘致・立地の促進**

筑後小郡ICへのアクセスに優れ、上下水道などのインフラが整備された四三嶋工業団地への企業誘致を促進し、雇用の拡大と税収の確保を図ります。また、主要地方道久留米筑紫野線の4車線化の進展にあわせ、数年後には（仮称）北部九州新食肉センターの竣工が予定されています。この施設は、今秋から稼働予定の榎木地区養豚施設との連携による地域経済の活性化も期待されています。



※写真はすべてイメージです。

健康  
福祉



### がん検診・特定健診の実施

健康課 6,060万円

がん検診・特定健診を実施することで、早期発見、早期受診につなげ、生活習慣病やがんによる死亡率の低下および健康寿命の延伸を図ります。

健康  
福祉



### 在宅介護者リフレッシュ事業

福祉課 69万円

高齢者・障がい者を在宅で介護している家族を対象に、介護者の心身のリフレッシュを図るため、年3回バスハイクや交流会を実施します。

観光  
商工業



### 食の魅力を発信

農林商工課 1,600万円

筑前町の食のPRのため、「ちくぜん食の仕送り便」として、町外の家族や友人へ町の食を贈る際の送料の補助金です。

**New!**

くらし



### 安の里公園通路のバリアフリー化

都市計画課 702万円

安の里公園トイレ前および前面道路からの進入口の段差を解消するバリアフリー化の工事を実施し、利用者の安全確保を図ります。

観光  
商工業



### 町内イベント補助による町の活性化

企画課 1,989万円

ど〜んとかがし祭や産業フェスタなど町内で開催される祭りやイベントに補助金を交付して、町の活性化と町民同士の融和を深めます。

観光  
商工業



### オンデマンドバス事業

企画課 4,908万円

乗降所の新設・移設などを行いながら、より使いやすいバスを目指し、高齢者をはじめとした多くの人の利用を促進します。

※写真はすべてイメージです。



町のまちづくりの原点は、「食と平和」です。これから先、どのように時代が変化しても、私たちが大切に守り育てていく理念は変わりません。

この理念を大切にしながら、町民の皆さんとともに歩みを進め、「住んでよかった」と感じていただける筑前町を、さらに前へと進めていきたいと考えています。

本年も、そのような一年となるよう取り組んでまいります。

【表紙の写真について】 まちをより良くしていくための1年間の方針をまとめた臨時号の表紙には、2018年・2025年開催のフォトコンテスト入賞作品から、四季折々の風景写真を選びました。